

「安倍政権は退陣させるべきだ」

2020年06月15日

私は、安倍晋三首相と彼の政権がやっていることを思うと、こんな政治であってはならないと怒りが湧く。安倍政権を退陣させるべきだと思う。森友・加計問題は根が同じである。安倍首相と思想が近い人、また旧友には、国家の金を優遇する手法である。そのからくりがばれそうになると、文書を隠蔽、改竄して取り繕う。「自分は国民に仕える公務員」と言い、忠実に働いていた人が改竄を強要され、従ったことに苦しみ、自死された。改竄に関わった人々は、事実にも目を向けず、口をつぐんで、何もなかったことにするのであるか。人の命を無為に葬り去るなら、トカゲのしっぽ切りで、あまりに悲しい。「桜を観る会」には、国や社会に貢献した人々を招いたのなら、名誉あることなのだから、氏名を公にしても差し障りはないだろう。安倍首相はじめ、自民党有力者たちは選挙支援者やお気に入りを入りを招いたので、公表できないのではないか。安倍首相が、ホテルで地元民に振る舞った宴席は、公職選挙法違反に当たることを恐れて、招待者氏名簿がシュレッダーで跡形もなく処分され、ホテルとの契約書類も未公開となっている。訴訟が起こされているが、裁判で、選挙法違反の罪状を解明し、立候補できないようにしてもらいたい。

黒川弘務検事長の定年延期を強引に閣議決定し、更に、検察庁法を改正して、政権に都合の良い人を登用できるシステムにしようとした。検察は時の政権を起訴できる権限を持ち、三権分立を保障する立場にある。田中角栄元首相をロッキード事件で起訴し、有罪判決を下したことは、誰もが記憶に深く留めていよう。黒川氏は安倍政権に近いと言われているが、どのように近いのかは分からない。上記の諸々の件につき、安倍政権に傷がつかないように図ったのではないかと想像するのは、私だけではあるまい。かけがえのない人材と言われている黒川氏は、外出が規制されている最中、賭けマージャンをしていたことが暴露され、辞任した。罰則は「訓告」という最も軽いものであった。誰よりも法を守るべき人が法を無視していた訳である。森まさこ法相は当初、「訓告」処罰は安倍首相が決めたと言っていたが、安倍首相は検事総長の決定と言いき、森法相もそれに倣った。検事長の進退は首相の決定事項であることは法に定められている。自分で責任を負うべきことを、他人に押し付けている。開いた口が塞がらないとはこのことである。

新型コロナ問題が世界を揺るがしている。安倍首相がまずしたことは、一世帯2枚のマスクの配布と、犬を抱いてステイホームする映像の配信と、一人宛10万円を支給することであった。マスクの配布はもう手遅れで、欲しいと思う人はいない。犬を抱いた映像はポイント外れも甚だしい。10万円の支給も6月半ばになっても届いていない。その後、補正予算を組み、「過去最大」と大見えを切ったが、届くのが遅れに遅れ、現実的に救済されていない。驚くことは、持続化給付金の給付作業を請け負った業者が電通に委託し、電通は諸々の下請け業者に給付作業を再委託し、中抜きが疑われている。「Go Toキャンペーン」も委託先の選定経過は公表されていない。政府が、特定の業者を優遇しての選定のようなのだ。仲良し仲間を優遇する安倍政権のやりそうなことである。困窮している人たちの命がかかっている。給付金は国民の税金である。無駄な、また、私腹を肥やさせるような使い方は厳に慎むべきである。医療関係者を励まそうと、花火を上げたことは理解できるが、ブルーインパルス飛行は全く無駄で、そのお金は病院に回した方がよい。安倍首相は二言目には、国民の命と生活を守ると言うが、国民生活を無視し、自分と仲間だけの權益を守ることに汲々としている。安倍政権下では子どもの真っ当な教育ができない。